



未来に責任

枚方市議会議員 / 無所属

木村亮太

市政報告 12

<http://kimura-ryota.net/>

みんなで考える 社会保障 人口減少

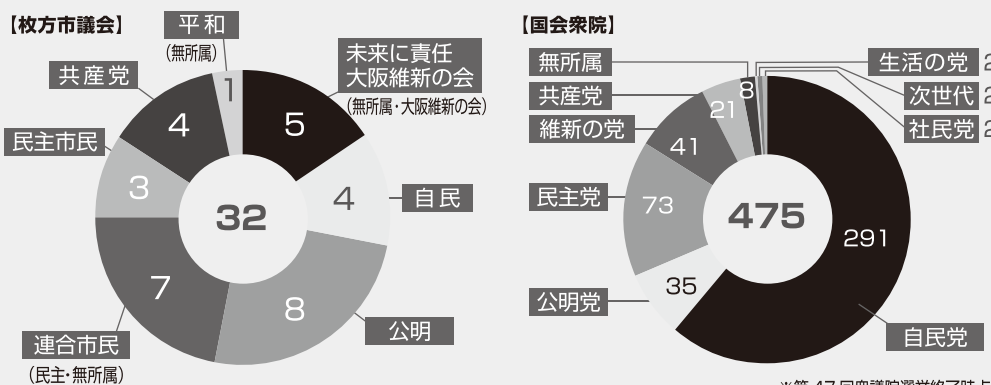


ひとりひとりが明るい 未来をえがくために。

「将来世代へ負担を先送りしないための徹底した行財政改革と、教育の充実・子育て世代の支援などの未来への投資」そして、そのためには、ITも活用して、行政、議会、地域、NPOなどのまちづくりの担い手の環境整備、強化を目指します。

また、高齢化社会、人口減少を迎える中、持続可能なまちづくりのために、健康寿命の延伸や、都市計画についても取り組んでいきます。

枚方市と国会では構成が違います。だからこそ。



枚方市議会は国会(衆議院)のように1つの政党が単独過半数を占めているわけではありません。また、地方政治には政党政治の規定がなく、「住民の代表」としての性格が強いため、無所属の議員も多いです。政党に所属している議員もいます。会派党派が違えば主義主張が異なることもあります。しかし、一方で、議会として党派・会派を超えての議論をしていくことが枚方市にとっても必要であると考えております。

政治スタンス

「特定の地域や団体だけに利益を誘導する政治」ではなく、「枚方市全体の課題を解決する政治」を。
「負担を先送りする政治」ではなく、「未来に責任をもった政治」を。
また、「政策や想いで選ばれる政治」を実現したいと考えています。
そのため、情報発信を続けております。

スペースの関係でまだまだ書ききれない内容もあります。
ツイッター、ブログも随時更新しています。



経歴

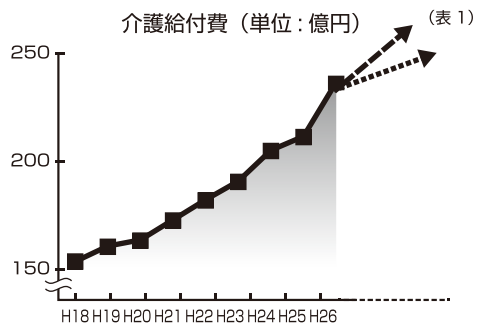
1984年4月生まれ、枚方小学校・バンコク日本人学校・枚方中学校・四條畷高校
大阪大学経済学部。化粧品を扱うベンチャー企業を経て市議会議員。現在 2 期目
NPO法人ドットジェイピー執行役員・グロービス経営大学院大学 (MBA)

問い合わせ先

電話: 070-5651-5832 E-mail: hirakata@kimura-ryota.net
〒573-8666 枚方市大垣内町 2-1-20 枚方市役所 4 階未来に責任・大阪維新の会議員控室
HP: <http://kimura-ryota.net> blog: <http://ameblo.jp/kimura-ryota> twitter ID: kimura_ryota
※このチラシは市政調査を目的として発行しています。皆様のご意見をお聞かせください。

持続可能な枚方市の未来のために社会保障と人口減少の問題に取り組む。

取り組み次第で枚方市の介護予防施策はまだまだ改善できる



介護保険というのは、加齢による病気などで介護が必要になった時も、できる限り自宅で自立した日常生活を営むことができるよう、必要な介護にかかる費用を社会全体で支援する社会保障制度です。介護が必要な人が年々増え、介護給付費は右肩上がりです。（表1）一人ひとりの健康で生き生きとした生活のためにも、持続可能な社会保障制度の観点からも避けては通れない問題です。

保険料と税金で成り立っている介護保険財政

介護給付費は40～64歳からの第二号保険料と65歳以上の第一号保険料を合わせた保険料で約半分、そして残りの約半分は税金で成り立っています。（表2）平成26年度は市税から約37億円が支出されています。「高齢化が進んでいるから社会保障費が膨らむのは仕方ない」確かにそういう側面もあります。

全国と比べて介護認定率の高い枚方市

しかし、枚方市は、年齢別の認定率を比較すると全国平均よりも高くなってしまっているのです。（表3）認定率が全国と比べても高いということは、課題でもあります。対応次第では、全国並みに認定率を下げ、介護を必要としない人を増やすことができる余地があります。

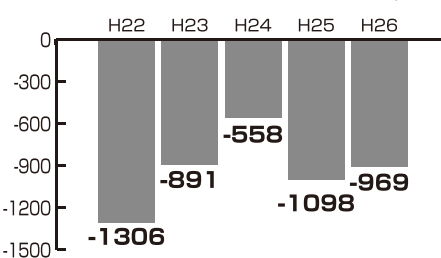
地域ごとの特性を分析し、対応を

また、介護の認定率は市内を13個に分けた日常生活圏域ごとで違いがあります。（表4）高齢化率が高ければ基本的には認定率も高くなりますが、高齢化率は低いのにも、認定率が高い圏域、またその逆の圏域もあります。これらは圏域ごとの環境や取り組みによって変わってくるものと考えられます。

そのために、健康寿命の延伸、認定率を下げるために、地域に応じて行政は場づくり・環境づくりをすべきです。そのために、まず、地域ごとの特性をしっかりと分析や把握をすべきであると提案をしています。それとともに、市民一人ひとりの意識も大事です。

住宅・子育て・総合的なまちづくりが必要不可欠

枚方市の転出超過数の推移（表1）



地方別の転入元・転出先（表2）



枚方市は、ここ5年間、転出超過が続いています。（表1）さらに、20～40代の働き盛りの方々の転出が多くなっておりま。転出が続くと、まちの活気が失われ、税収もさらなる減少が見込まれます。

明らかになる転出先

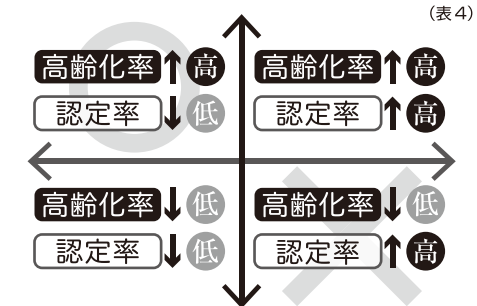
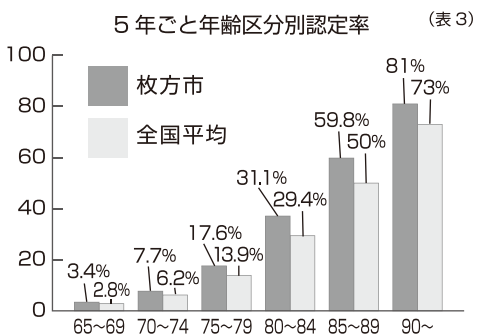
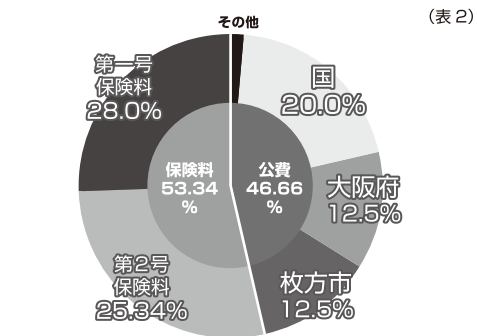
これまで、転出先の詳細分析をするべきだと主張してきました。結果として、東京圏よりも近畿地方への転出が多く、さらに大阪府内の近隣の自治体に転出が多くなっています。（表2）また、枚方市の町丁目別で各年度で一番転出超過・転入超過が多かった地域を調べると、転出が多い場所は団地の建て替えがあるところで、転入超過は新しいマンション建設が行われたところや住宅開発がされた場所です。（表3・4）

住宅があれば人口は増える？

これが原因の全てとは言いませんが、この分析からは転入の「受け皿」としての新しい家やマンションがあれば人が増えるとも考えられます。一方で人口減少の大きなトレンドの中では、既存の住宅やマンションには空き家、空き部屋が増えていますので、新築住宅だけではなく、既存住宅も活用するような住宅政策を考えていくべきだと提案しています。

まちの魅力向上と子どもが増えるまちに

「受け皿」を増やすのと同時に、まちの魅力を高めることも必要です。子育て世代が来るように、待機児童解消のために、保育士不足も解消しなければなりません。大阪府限定で保育士として働ける制度もできましたので、この機会を活用して、保育士の積極的採用も提案しています。他市よりも魅力のあるまちにして、枚方市から人が流出しないことや、他市から枚方市に引っ越してくる方を増やすことは大事です。しかし、このような都市間での人口の取り合いには、限りがあります。今後は、転入出という社会増減ではなく、子供が生まれていく、自然増を目指し、出生率が向上するような取り組みも必要であると考えています。



各年度で転出が一番多かった町丁目

H26年	中宮北町	-281
H25年	楠葉花園町	-265
H24年	御殿山南町	-373
H23年	交北3丁目	-138
H22年	香里ヶ丘1丁目	-135
H21年	交北3丁目	-199

単位：人（表3）

各年度で転入が一番多かった町丁目

H26年	宮之阪1丁目	248
H25年	津田南町2丁目	166
H24年	東牧野町	576
H23年	上野2丁目	176
H22年	上野2丁目	707
H21年	高塚町	741

単位：人（表4）